

# 平成27年度 学校評価アンケート結果報告

本校では、生徒の学校生活をより充実したものにするとともに、地域に愛される学校づくりを推進している。これらを実現するための取り組みの一環として、生徒、保護者、教職員対象の学校評価アンケートを昨年度より実施している。今年度は、学習指導、生徒指導、進路指導の各分野において、重点目標を掲げることによって取り組むべき方向性を明確にし、教職員の普段からの指導に役立てるようにした。

質問に対する回答選択肢において、「そう思う」「ややそう思う」を肯定的回答とした。その結果、ほとんどの質問に対して、肯定的回答が75%を超える高い評価となった。しかしながら、改善が必要な項目もあり、これらの結果をより良い学校づくりへ活かしていきたい。

今後も学校評価アンケートを継続してまいります。益々のご協力を賜りますようお願いいたします。

## 1. 重点目標

教職員の取り組むべき方向性を明確にするために、学習指導、生徒指導、進路指導の分野における重点目標を以下のように定めた。

学習指導・・・学力向上に向けて、授業の「質」の向上を目指す。

生徒指導・・・あいさつ、言葉づかい、身だしなみなど、基本的な生活態度の向上を目指す。

進路指導・・・生徒一人一人の為に、学年・学科が連動して進路保障に取り組む。

## 2. アンケート結果および考察

### 2. 1. 回答数および回収率

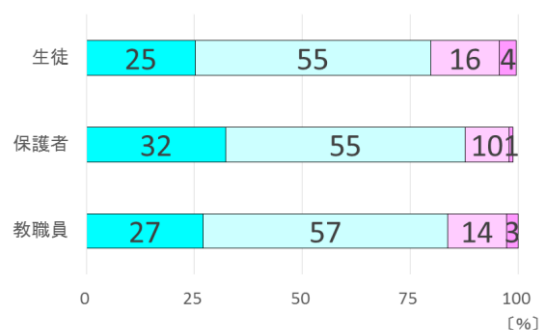
アンケートを配布した人数は、生徒612名、保護者612名、教職員52名であった。保護者に関しては、兄弟姉妹の存在は考慮せず、生徒数と同人数とした。アンケートの回答数は、生徒608名、保護者539名、教職員47名であり、回収率は、生徒99%、保護者88%、教職員90%であった。また、結果を示した表中の数値は、回答数を分母とした百分率で求め、小数点1位を四捨五入した値である。

## 2. 2. 結果および考察

アンケートは、教育活動全般、学習指導、生徒指導、進路指導の4分野から構成されている。質問に対する回答の選択肢は、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4段階とし、「そう思う」「ややそう思う」を肯定的回答とした。以下に、それぞれの分野における質問内容、回答結果、考察を記した。

### 2. 2. 1. 教育活動全般

Q1. 生徒(あなた)<sup>注1)</sup>にとって、学校生活は全般的に満足であると思えますか。<sup>注2)</sup>



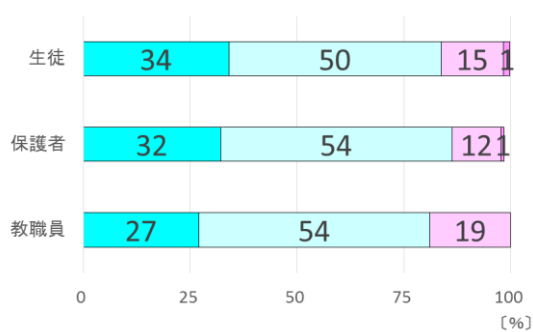
この回答は学校に対する総合的な評価と位置づけられる。肯定的回答が、生徒80%、保護者87%、教職員84%であった。これらの結果から、本校の教育方針に

注1) 質問中の(あなた)は生徒に対する質問の場合を示す。

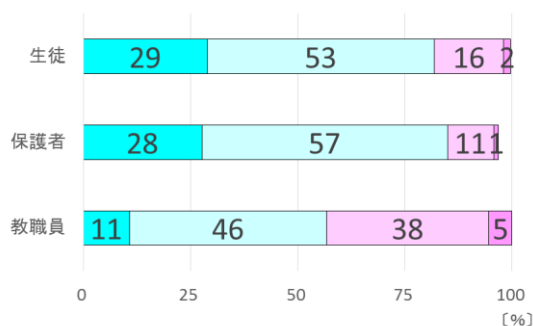
注2) 表中の凡例は表の左から順に 青 そう思う 緑 ややそう思う 紫 あまりそう思わない 赤 そう思わない を表す。

関して、一定の評価を得ていると考えられる。また、生徒からの肯定的回答が昨年と比べて7%も上昇したことは、大きな成果であった。

**Q2. 生徒(あなた)は、あいさつをしっかりとっていますか。**

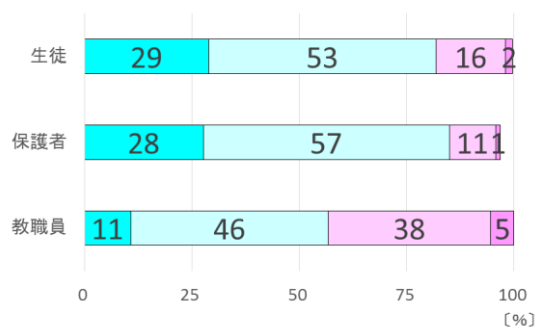


**Q3. 生徒(あなた)は、清掃にしっかりと取り組んでいると思いますか。**



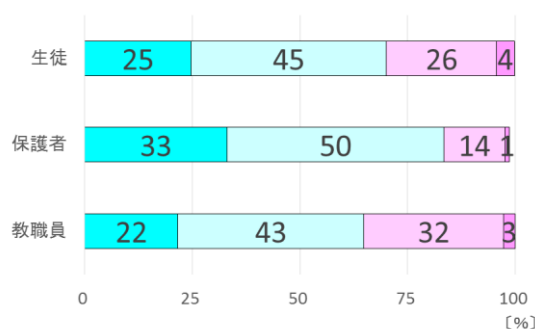
基本的な生活習慣であるあいさつ(Q2)と掃除(Q3)に関しては、肯定的回答が100%になるように努力していきたい。昨年度は掃除に関する教職員の肯定的回答が38%であったのに対して、今年度はそれが57%と大きく上昇した。掃除方法の指導などのきめ細かな声掛けの効果がみられたものと考えられる。

**Q4. 生徒(あなた)は、有高生としての自覚をもって生活していると思いますか。**



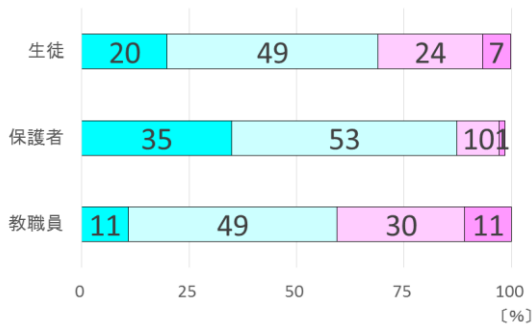
「有高生としての自覚」は、特に、校外における行動に反映すると思われる。その点で、保護者からの評価が高いことは、校外においても有高生としての自覚ある行動がしっかりとできていると考えられる。しかしながら、教職員の評価は低くなっている。教職員の理想とする自覚ある生活に生徒の行動が近づくようにきめ細かな指導を継続する必要がある。

**Q5. 生徒(あなた)は、目標をもって日々の学校生活を過ごしていると思いますか。**



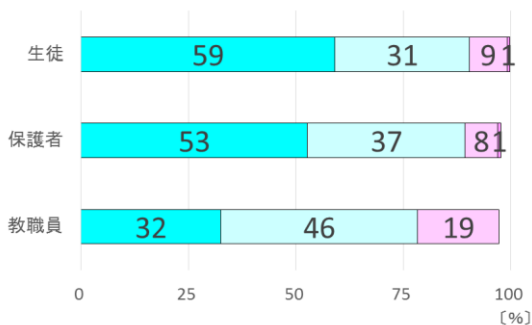
生徒や教職員の結果と比べて、保護者の肯定的回答が非常に高くなっている。本校は、普通科以外に看護科、福祉科、電気情報科、生産工業科の実業系の学科がある。実業系の生徒は、専門科目や実習等の授業を受ける中で、将来の具体的な目標が生徒の気づかないうちに自然と定まりつつあるのではないかと考えられる。しかしながら、教職員の評価が低いことに関しては、それぞれの学科の目標を明確にし、生徒へ伝える努力を継続する必要がある。

Q6. 学校の施設・設備は、学習環境の面で充実していると思いますか。



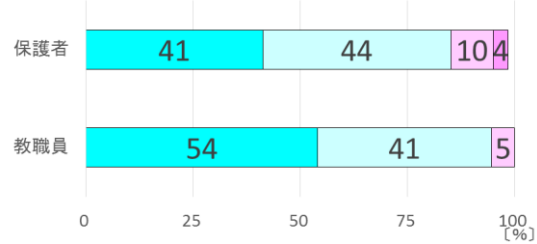
昨年度から今年度にかけて、講義室のスクリーンやプロジェクター等の設置や情報教育室のパーソナルコンピュータの総入れ替えを行った。これらのことが、教職員の評価を昨年より17%増加させたと考えられる。しかしながら、生徒や保護者の評価に比べるとまだ低い結果である。教職員の意見に傾聴し、教育施設をより充実していきたい。

Q7. 生徒（あなた）は、8時35分登校や授業開始の時間を守っていると思いますか。

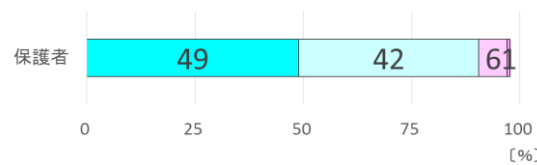


時間を守ることは、落ち着いた学校生活を過ごすうえで非常に大切であるとともに、授業への関心の高さを反映するものである。肯定的回答が、生徒90%、保護者90%、教職員78%となっている。実業系の学科では、実習などで着替えや移動が多いにも関わらず、肯定的回答が90%に達したことは、生徒の授業への意識が高いものと考えられる。来年度は、教職員からの評価も更に高くなるように取り組んでいきたい。

Q8. 学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切であると思いますか。



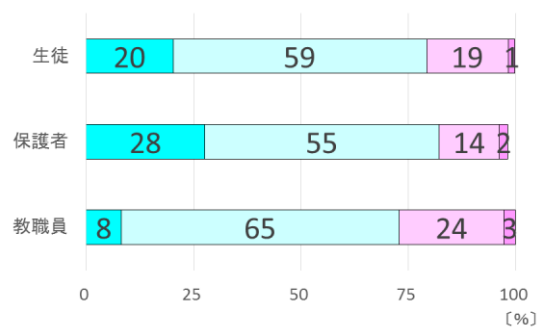
Q9. 教職員の電話や来客への対応は適切であると思いますか。



質問 Q8 および Q9 では、肯定的回答が 85% より大きな割合を示しており、一定の評価を頂いたと判断している。しかしながら、文書連絡が遅いといった意見もあり、早めの対応を心掛けたい。また、電話や来客時においても、より良い対応を心掛けていきたい。

## 2. 2. 2. 学習指導

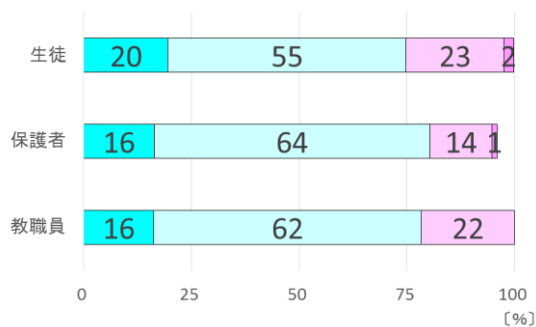
Q1. 生徒（あなた）は授業に積極的に取り組んでいると思いますか。



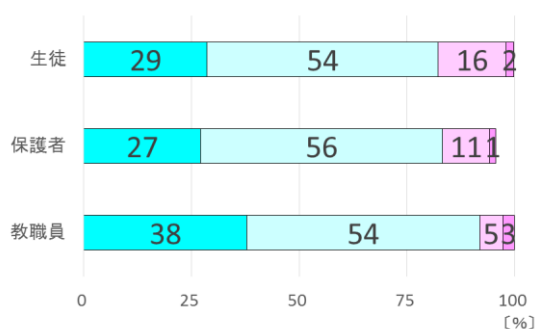
肯定的回答は、生徒79%、保護者83%、教職員73%であった。授業に積極的に臨む姿勢が内容理解の第一

歩なので、更に評価が上昇するように今後取り組んでいきたい。

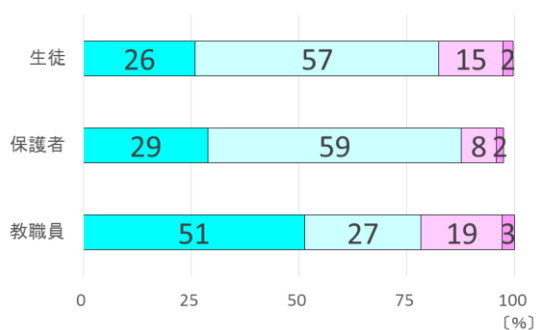
Q2. 先生の授業の進め方には、工夫がみられると思いますか。



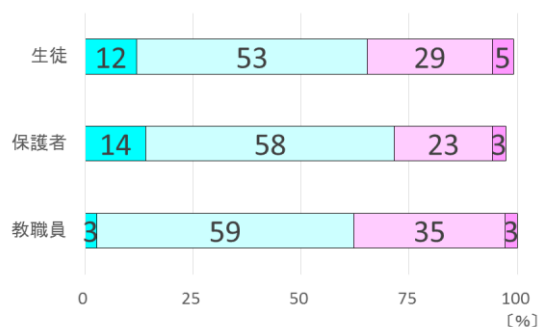
Q3. 先生は、学力向上のために学習内容を熱心に教えていると思いますか。



Q4. 授業内容は、生徒（あなた）の進学や就職を考えたうえで満足できるものですか。

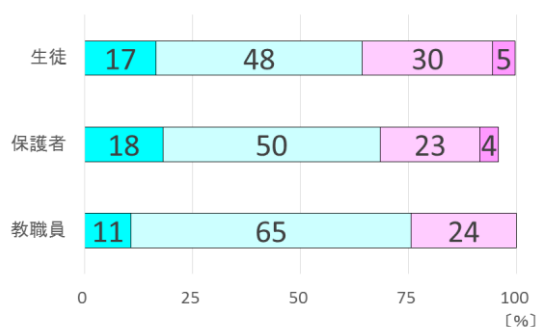


Q5. 授業は、わかりやすく、理解できていると思いますか。



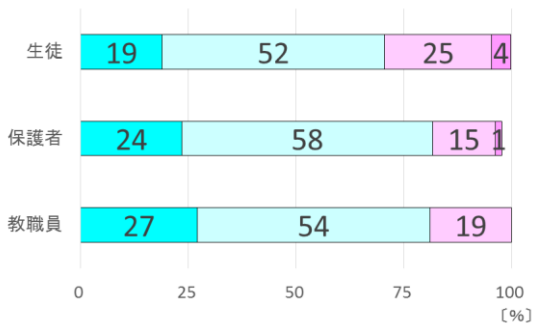
質問 Q2 から Q5 の結果は、昨年と同様の回答が得られた。これらの結果から考えられる状況として、教師の熱意があつて、指導内容も進路を考慮しているにも関わらず、生徒がそれ程理解していないと考えられる。生徒の理解度を向上させる取り組みが望まれる。

Q6. 生徒（あなた）は、授業を通して、学力が向上していると思いますか。



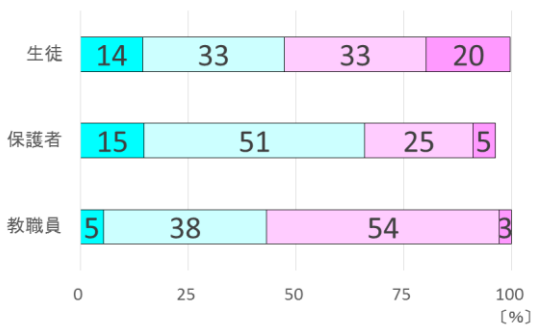
生徒の肯定的回答が教職員の結果より 10% 近く低くなっている。生徒の謙虚さかもしれないが、自身の正確な学力を把握することは、自己学習の方法や面接等での自己 PR 等にも影響を及ぼすと考えられる。学力を客観的に把握する取り組みが今後必要と考えられる。

Q7. 学校は、生徒（あなた）にとって学習に集中できる環境であると思いますか。



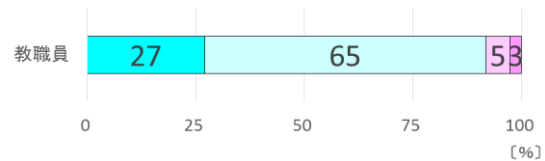
学習に集中できる環境は、設備の充実だけでなく、周りの生徒の気配りなど、様々な要因によって形成される。肯定的回答が高い割合を示したことは、学校の雰囲気が非常に良い状態であることを反映していると考えられる。ただし、保護者や教職員の評価より、実際に学習している生徒の評価が低くなっている。これは軽視できない結果である。生徒の評価が上昇するように取り組む必要がある。

Q8. 生徒（あなた）は、朝読書（朝自習）を有意義に活用していると思いますか。



生徒および教職員の評価が低くなっている。改善点を明らかにし、充実した朝読書や朝自習が実施されるように努力していきたい。

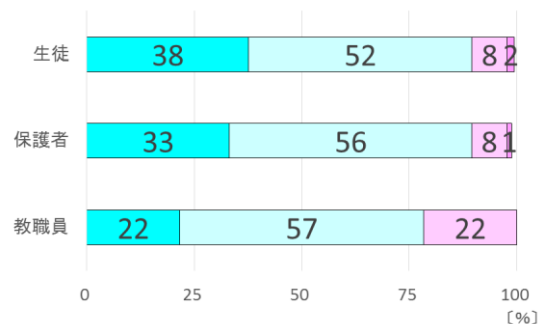
Q9. 授業の円滑な進行のために、教職員間の連携が図られていると思いますか。



学習指導の分野の全体的な結果は、生徒指導や進路指導等に比べると肯定的回答の割合が低くなっている。ただし、教職員間の連携はよく取れていることから、様々な意見を出し合い、更に高い評価を得るように努めていきたい。

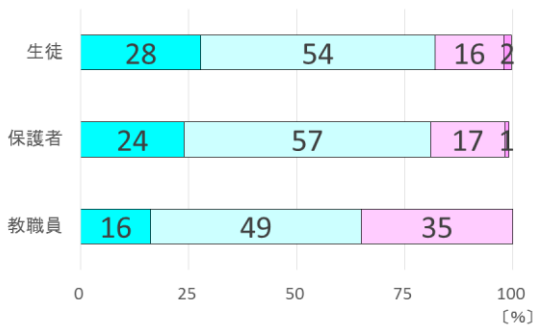
## 2. 2. 3. 生徒指導

Q1. 生徒（あなた）は、学校生活においてモラルやルールを守っていると思いますか。



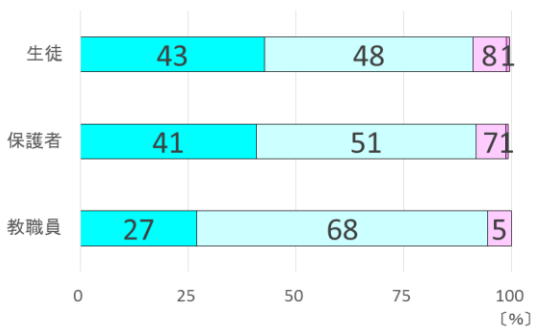
肯定的回答が高い割合を示した。学校生活において、モラルのある行動が自然にできるようになると、学校外での行動に反映されると考えられる。本校生徒のモラルの良さは、地域の方々に浸透しつつあり、このことを裏付ける回答が得られたと考えられる。ただし、昨年の結果に比べると、教職員の評価が5%程減少している。早めの対応を心掛けていきたい。

Q2. 生徒（あなた）は、言葉づかいが適切であると思いますか。



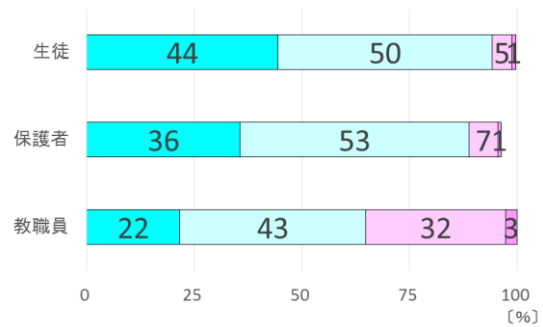
昨年よりも、生徒と教職員の肯定的回答が5%程度増加した。ただし、生徒と教職員の結果に差がみられた。この要因は、不適切な言葉づかいに気づかない生徒が多いためであると考えられる。間違った言葉づかいを気づかせ、正そうとする意識を付けさせる指導を今後も粘り強く続けていきたい。

Q3. 生徒（あなた）は、服装・頭髪をきちんとしていると思いますか。



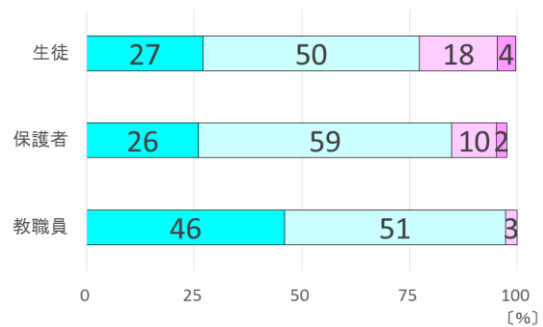
昨年の結果において、生徒、保護者、教職員の肯定的回答がすべて85%を超えていたが、今年は更に高い結果となった。このことから、生徒は落ち着いた学校生活を送っていることがわかる。

Q4. 生徒（あなた）は、施設や設備を丁寧に使用していると思いますか。



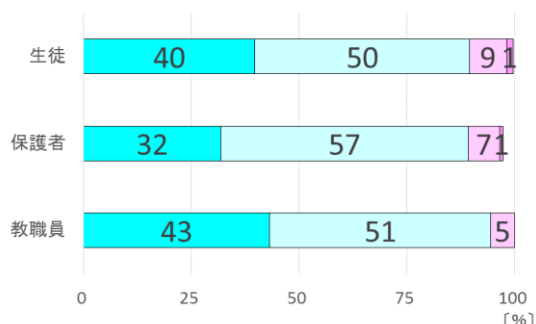
生徒と教職員の肯定的回答に大きな差があった。この結果は、昨年と同様であり、教職員の評価が高くなるように、きめ細かい指導を粘り強く今後も行う必要がある。

Q5. 先生は、生徒（あなた）の悩みや相談に親身に応じていると思いますか。



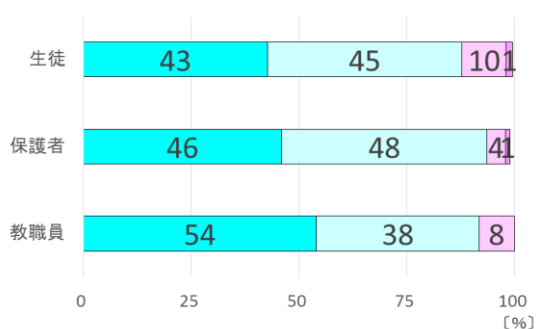
肯定的回答が高い割合を示すとともに、昨年度より僅かであるが増加している。一人ひとりの生徒を大切にしている気持ちをもって指導を行ってきた成果である。しかしながら、教職員の気持ちが届いていない生徒が存在しているために、生徒と教職員の結果に差がみられると思われる。教職員のアンテナを更に高くし、生徒の様子をきめ細かく察知していけるように、教職員の協力を強化していかなければならない。

Q6. 交通指導（自転車、バイク指導も含む）は、適切であると思いますか。



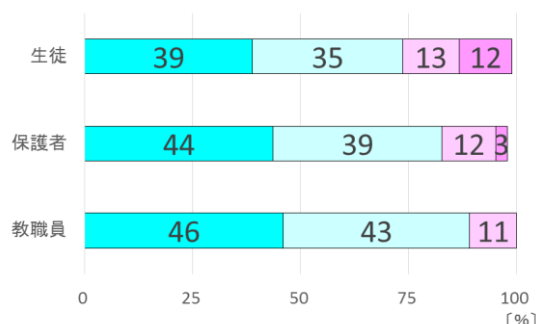
昨年に引き続き高い評価を得られた。月3回の自転車2重施錠の調査、年3回の自転車やバイク点検、そして、長期休み前の交通講和などの交通安全指導を行っている。交通事故が起きないように、油断することなく指導していきたい。また近年、全国的に自転車運転者が加害者になる事故が増えつつある。自転車の並走、イヤホンで音楽を聴きながら、そして、傘を差しながらの運転などをしないような指導を今後行っていく必要がある。

Q7. 生徒（あなた）は、文化祭や体育大会等の学校行事に積極的に取り組んでいると思いますか。



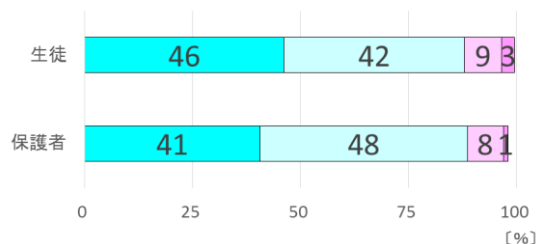
昨年同様、肯定的回答が高い割合を示した。本校の文化祭や体育大会は大変盛り上がる学校行事である。これも、準備段階を含めた生徒の積極的な取り組みによるものである。また、本校の体育大会は平日に開催されるが、生徒の取り組む姿勢が保護者に伝わっているのか、参観される保護者は年々増加している。

Q8. 生徒（あなた）は、部活動に熱心に取り組んでいると思いますか。



本校の部活動は非常に活発であり、全国大会出場常連の女子陸上部、女子体操部、百人一首部をはじめ、県下でも強豪校として注目されている硬式野球部、卓球部、女子バスケットボール部、多くの地域行事等に出演している太鼓部などがある。近年は、ほとんどの部や同好会が活発に活動しており、放課後も学校全体が活気に満ちている。この状態を反映するように保護者や教職員の評価は高くなっている。

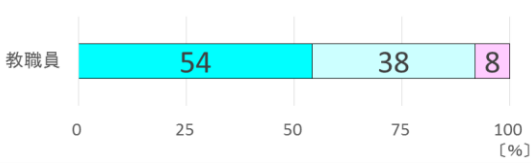
Q9. 生徒（あなた）は、本校の生徒と良い交友関係を築いていると思いますか。



肯定的回答は、生徒88%、保護者89%であり、高い評価を得た。更に高評価を得るために、担任を中心とした生徒への声掛け等による状況把握を行い、学年および学科による対策を実施していきたい。



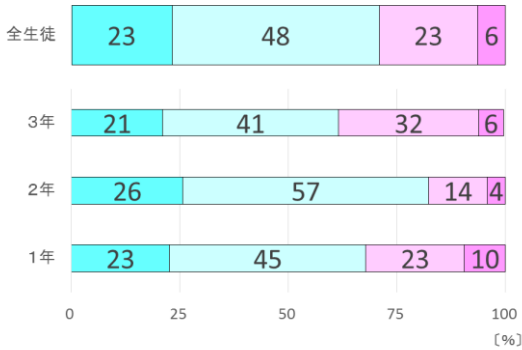
Q10. 生徒指導が円滑に進むために、教職員間の連携が図られていると思いますか。



生徒指導は学校の要であることを教職員全員が理解し、小さなサインも見逃さないように教職員が協力しながら生徒指導に取り組んでいる。その取り組みがうまく機能していることを示す結果となった。

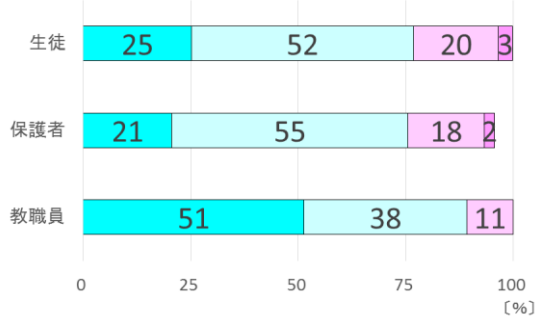
### 2. 2. 4. 進路指導

Q1. 生徒（あなた）は、進路実現に向けて、資格取得や検定試験に取り組んでいると思いますか。

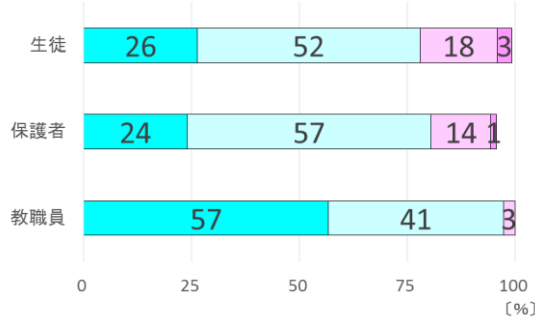


上の表は学年別の結果を示した。全生徒の肯定的回答の割合は71%であり、昨年と比べると、12%増加した。学年の違いに着目すると、3年生の肯定的回答の割合が最も低くなっている。この原因としては、就職試験が目前に迫り、資格取得や検定試験を考える余裕がないためであると思われる。資格や検定は、就職後に役に立つものであるため、卒業まで多くのそして上級の資格や検定に合格するよう頑張ってもらいたい。

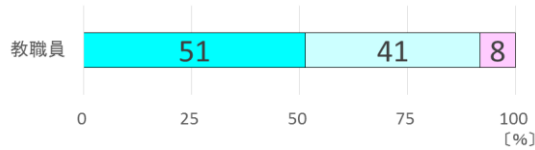
Q2. 学校は、生徒（あなた）へ進路についての十分な情報を知らせていると思いますか。



Q3. 学校は、進路についての指導・面談を一人一人丁寧に行っていると思いますか。



Q4. 生徒の進路実現に向けて、教職員の連携が図られていると思いますか。



上記の質問 Q2 と Q3 に関しては、肯定的回答がほぼ 80% を示しており、進路指導の取り組みは評価されていると考えられる。しかしながら、昨年と同様に、生徒および保護者と教職員の評価の違いが大きくなっている。教職員の連携を問うた Q4 に示すように、肯定的回答が 92% と非常に高い評価となっているが、もっと生徒目線に立った進路指導の方法を模索して、より良い指導方法を確立していきたい。



### 3. おわりに

学校評価アンケートを実施するにあたり、保護者の皆様には、ご協力を賜りありがとうございました。ほとんどの質問に対して、昨年より高い評価を頂きました。しかし、改善が必要な点に関しては、関係する教職員の連携を図り、問題点を改善し、新たな重点目標等に反映させることによって、次回のアンケートでは、更に高い評価を得るように努力してまいります。

有明高校は、地域から愛される学校を目指し、成長し続けてまいります。今後とも、ご支援とご協力をお願いいたします。